

第1章 保存調査の目的と対象地の概要

第1節 保存調査に至る経緯

五島列島地域は、日本の西端の離島という地理的要因から、古来、大陸との交流の窓口となり、遣唐使派遣時代には中国へ渡る日本最後の寄港地として知られてきた。列島内には遣唐使ゆかりの寺社、史跡等が数多く所在する。また、江戸時代後期に潜伏キリシタンが逃れてきた歴史的背景から、カトリックの教会堂が数多く所在することでも知られている。これらの一部は五島列島地域史に欠くことが出来ない貴重な文化遺産として保護・活用が図られている。

五島市の市域である下五島地域は、五島列島南部の奈留島、久賀島、福江島の主要島と属島からなる。江戸時代後期に多くの潜伏キリシタンが移住してきた歴史的背景から、キリスト教（カトリック）の教会堂や潜伏キリシタンが移住したことに起源をもつ集落が数多く所在する。このような歴史や資源を、地域活性化のために活かそうと、世界文化遺産の登録を目指した取り組みを進めてきた。平成19年1月には「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として世界文化遺産暫定リストに登録され、その構成資産候補に奈留島の「江上天主堂」、久賀島の「旧五輪教会堂」が位置付けられた。

一方、教会堂だけでなく、キリシタンが移り住んだ集落や島の価値にも目を向け、その環境を保護していこうと、平成20年度には、市全域を対象とした「五島市景観計画」を策定するとともに、平成20年度から平成21年度にかけては、久賀島を中心に文化的景観の保存調査を実施した。この保存調査を通して、久賀島を中心に集落の立地と生業のあり方、中でも地域における山林のヤブツバキを活かしたツバキ油の生産のあり方について明らかにした。この結果、平成23年9月、「五島市久賀島の文化的景観」として久賀島全体が重要文化的景観に選定された。この調査の中で、奈留島の北西部に当たる大串集落・江上集落は、瀬戸を挟んで久賀島東海岸と近く、生活生業において久賀島との関連が確認されている。

平成22年3月に「久賀島景観まちづくり計画」を策定し、久賀島全域を「文化的景観地区」と定め、平成25年1月には、地域住民の意見を聞きながら、江上天主堂の周辺地区を対象とし、行政と住民が景観を活かしたまちづくりを進めるための「江上地区景観まちづくり計画」を策定し、江上集落全体を「景観重要地区」として定め、より詳細な景観形成基準を定め、誘導を図っている。

平成30年7月には、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として世界文化遺産に登録され、五島市では「久賀島の集落」とともに「奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)」が構成資産となった。世界文化遺産として評価する価値と構成資産が、教会堂から集落に移す過程において、奈留島においては江上天主堂を含む江上集落全体が評価されると同時に、文化財としての保護の措置も求められる状況にある。

このような背景より、平成29年4月より、奈留島を対象に、久賀島との歴史及び生活・生業における関連性も踏まえ、文化的景観としての特徴と価値を明らかにするための調査を行うこととなった。

第2節 保存調査の目的と内容

保存調査は、奈留島の文化的景観としての特徴及び価値と、保護を必要とする範囲を明らかにすることを目的とする。

保存調査は、地形・地質等の自然、歴史、かくれキリシタンの民俗・習俗を含めた生活・生業の3つの観点から実施する。全体を通して、五島市久賀島の文化的景観に対する保存調査を踏まえ、奈留島と久賀島との関係性についての調査分析も深めることとした。

調査範囲は、奈留島全体とするが、詳細な集落調査については、久賀島とのつながりが特に深いと認識される大串集落、江上集落に加え、潜伏キリシタンが移住し形成された代表的な集落である矢神集落、汐池集落、椿原集落の5集落を対象とした。

なお、保存調査は、平成29年度から30年度にかけて、五島市が文化庁の文化的景観保護推進事業国庫補助及び長崎県の補助を受けて実施した。

(1) 調査範囲

調査範囲については、久賀島とのつながりが特に深いと認識されていた江上、大串集落を中心として調査し、奈留島における集落の立地性、構造を比較、分析するため、いくつかの典型的な集落を抽出し調査対象とした。調査対象集落は、江上、大串、矢神、汐池、椿原の5集落とした。各集落の位置については、4Pの位置図(図1-3)参照。

(2) 調査項目

調査にあたっては、以下の内容について調査を進めた。

- ①集落景観… 集落景観の構造と特徴の分析(構成要素の把握・整理)
- ②地質と地形… 調査範囲の地質学的調査(地質、地形の形成史)
- ③社会調査… 生業、生活、社会構造等の調査
- ④歴史・民俗… 地域史を中心に、歴史学・民俗学的調査
- ⑤建築… 特徴的な建築物の調査(宗教施設、生業に関わる民家等)

第3節 五島列島における奈留島の概要

(1) 奈留島の概要

奈留島は、五島列島のほぼ中央に位置する。1957年の町制施行の際、周囲の有人島である前島、1973年に住民が集団移転したために現在は無人島となっている葛島(かずらしま)、及び周辺の無人島とともに南松浦郡奈留町を構成したが、2004年の平成の大合併時に、福江島の1市4町と合併して五島市となった。

島の面積は23.68km²、周囲75.4kmで、出入りの激しい海岸線は長く、天然の良港が形成されている。反面、耕地は少なく、東西に急傾斜した山腹沿いに僅かに散在するのみである。

島には、18世紀末からの大村藩の外海(そとめ)地方から潜伏キリシタンが新天地を求めて移住してきており、教会をはじめとする歴史文化的遺産が所在している。

本土との交通は、福江島～奈留島～奈良尾（中通島＝新上五島町）～長崎間、及び青方（中通島）等を経由する福江島～博多間にフェリーが運航されており、福江島との間にはフェリーと高速船が就航。属島の前島と奈留島間にオンデマンドの交通船が就航している。

島の基幹産業は、中型まき網漁業と一本釣漁業、養殖漁業を主体とする水産業だが、近隣国の漁船との競合、乱獲による資源の枯渇、輸入水産物の増大による魚価の低迷、就業者の高齢化など数多くの課題があり、国内の類似他地域と同様にその置かれた環境は大変厳しい。

島の人口は、合併直後の平成16年8月末には、3,717人であったが、合併から約15年後の令和2年1月末には、2,138人にまで減少している

（2）位置

五島市が所在する五島列島は、九州の最西端に位置し、北東から南西へと連なる列島であり、北から、中通島、若松島、奈留島、久賀島、福江島の主要島と属島からなる。奈留島は五島列島のほぼ中央に位置する。

一般的に中通島、若松島を上五島地域、奈留島以南を下五島地域と呼称し、それぞれ新上五島町、五島市という行政単位となっている。（図1-1、2参照）

五島市は11の有人離島と52の無人島から構成され、旧奈留町の行政範囲は、奈留島を主島とし、有人離島である前島と葛島かづらしま（現在は無人島）、末津島、矢神ノ小島、小島などの無人島を含めた範囲であった。



図1-1 下五島地域の地勢



図 1 - 2 五島列島及び奈留島位置図



図 1 - 3 調査対象集落位置図

(3) 人口構造

平成 27 年度に実施された国勢調査によると、五島市の総人口は 37、327 人で、前回（平成 22 年）より、3、295 人（8.1%）の減少となっている。最も減少率が高いのが旧奈留町（以下、奈

留地区）の 19.17%で、次いで旧玉之浦町（以下、玉之浦地区）14.73%、旧三井楽町（以下、三井楽地区）12.47%、旧岐宿町（以下、岐宿地区）10.03%、旧富江町（以下、富江地区）9.94%、旧福江市（以下、福江地区）5.23%の順になっている。また、地区別の人口構成は福江地区 23、264 人と全体の 62.3%を占め、次いで富江地区 12.2%、岐宿地区 8.8%、三井楽地区 7.0%、奈留地区 6.1%、玉之浦地区 3.6%と続いている。

1 世帯あたりの平均世帯人員は 2.1 人で、前回（平成 22 年）より 0.1 人減少している。地区別では福江地区 2.2 人、富江地区 2.0 人、玉之浦地区 1.9 人、三井楽地区 2.1 人、岐宿地区 2.2 人、奈留地区 1.8 人となっている。

年齢構成の割合については、年少人口（15 歳未満）11.1%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）52.0%、高齢人口（65 歳以上）36.8%となっており、前回（平成 22 年）と比べると年少人口 0.7%、生産年齢人口 2.8%の減少に対し、高齢人口は 3.4%増となっており、少子高齢化がますます進んでいることが分かる。（図 1－4 参照）

年次	人口(人)			世帯数(戸)	人口増減数(人)	人口増減率(%)	1世帯当たり人員(人)
	総数	男	女				
昭和30年	91,973	45,390	46,583	18,596			4.9
昭和35年	87,232	42,751	44,481	19,401	▲ 4,741	▲ 5.2	4.5
昭和40年	78,642	38,086	40,556	19,542	▲ 8,590	▲ 9.8	4.0
昭和45年	68,649	32,547	36,102	19,206	▲ 9,993	▲ 12.7	3.6
昭和50年	63,410	30,040	33,370	19,230	▲ 5,239	▲ 7.6	3.3
昭和55年	60,947	28,819	32,128	20,159	▲ 2,463	▲ 3.9	3.0
昭和60年	57,736	27,082	30,654	20,473	▲ 3,211	▲ 5.3	2.8
平成2年	54,143	25,132	29,011	20,187	▲ 3,593	▲ 6.2	2.7
平成7年	51,295	23,690	27,605	20,113	▲ 2,848	▲ 5.3	2.6
平成12年	48,533	22,493	26,040	19,967	▲ 2,762	▲ 5.4	2.4
平成17年	44,765	20,610	24,155	19,305	▲ 6,530	▲ 7.8	2.3
平成22年	40,622	18,782	21,840	18,382	▲ 4,143	▲ 9.3	2.2
平成27年	37,327	17,339	19,988	17,425	▲ 3,295	▲ 8.1	2.1

各年10月1日現在

国勢調査

図 1－4 五島市の人口及び世帯数推移（平成 12 年以前は、市町村合併前の 1 市 5 町の合計）

合併後の旧1市5町で最も人口減少率が高いのが旧奈留町であることは先述したが、この主な要因は、市町合併後において五島市の中心部である旧福江市地区に市内転居が行われた結果であるといえよう。このような現象は合併後の自治体でよくみられ、教育、医療、勤務地などを考慮しての中心市街地への転居した結果であるが、五島市においては、特に旧奈留町において顕著にみられた。

旧奈留町内の各集落における人口推移を分析すると、各集落が軒並み右肩下がりに人口減少している中で、相ノ浦集落と檜木山集落は昭和40年代からいったん大幅な増加を見せている。これは、相ノ浦集落は奈留島の中心市街地であるため、利便性を求め島内の他集落からの転居が増えたことによるものであり、また、昭和30年代半ばからの埋め立てによる宅地造成も島内移住に拍車をかけた。

檜木山集落の人口増の要因については、昭和48年の過疎集落再編成事業により、葛島の島民が檜木山地区に集団移転した結果であり、そのため、葛島は昭和48年以降無人島となった。

調査対象地区の集落を見ると、各集落とも人口減少が著しいが、特に江上集落においては顕著である。椿原、矢神、汐池の各集落は人口減少が著しかったとはいえ、現在でも比較的まとまりを持った集落を維持している。

選定申出予定区域の江上、大串集落のうち、江上集落においては、より生活の利便性を求めて島外(主に旧福江市地区)への転居が多かったことがヒアリングにより明らかになっている。

大串集落については、現在でも比較的集落のまとまりを維持しているものの、平成に入ってから減少率は顕著である。これは、平成10年3月の江上小学校廃校が大きな要因とみられ、廃校後に島の中心部への転居する傾向があった。(図1-5参照)

	昭和32年	昭和45年	昭和55年	平成2年	平成15年	平成25年	平成30年
浦	646	533	473	392	294	212	184
浦向	493	439	398	318	251	170	139
相ノ浦	639	993	1080	1068	930	656	580
樫木山	406	344	437	524	438	307	272
白這	453	324	264	268	250	187	148
宿輪	336	128	63	53	35	20	14
鈴ノ浦	264	149	76	44	21	11	10
泊	464	359	301	258	207	135	101
奈木	90	81	59	69	67	41	34
大林	350	243	195	162	98	63	58
東風泊	244	171	128	118	101	57	52
椿原	171	106	64	64	40	30	26
船廻	272	201	108	139	167	112	105
田岸	407	251	216	239	177	123	96
南越	350	350	241	159	150	101	72
矢神	298	203	198	154	101	71	46
汐池	372	225	110	110	72	47	36
永這	271	159	108	76	63	37	34
大串	574	433	303	246	137	93	83
夏井	554	431	342	266	192	129	91
江上	185	109	57	23	12	7	5
前島	221	151	121	107	50	29	24
葛島	263	102	0	0	0	0	0

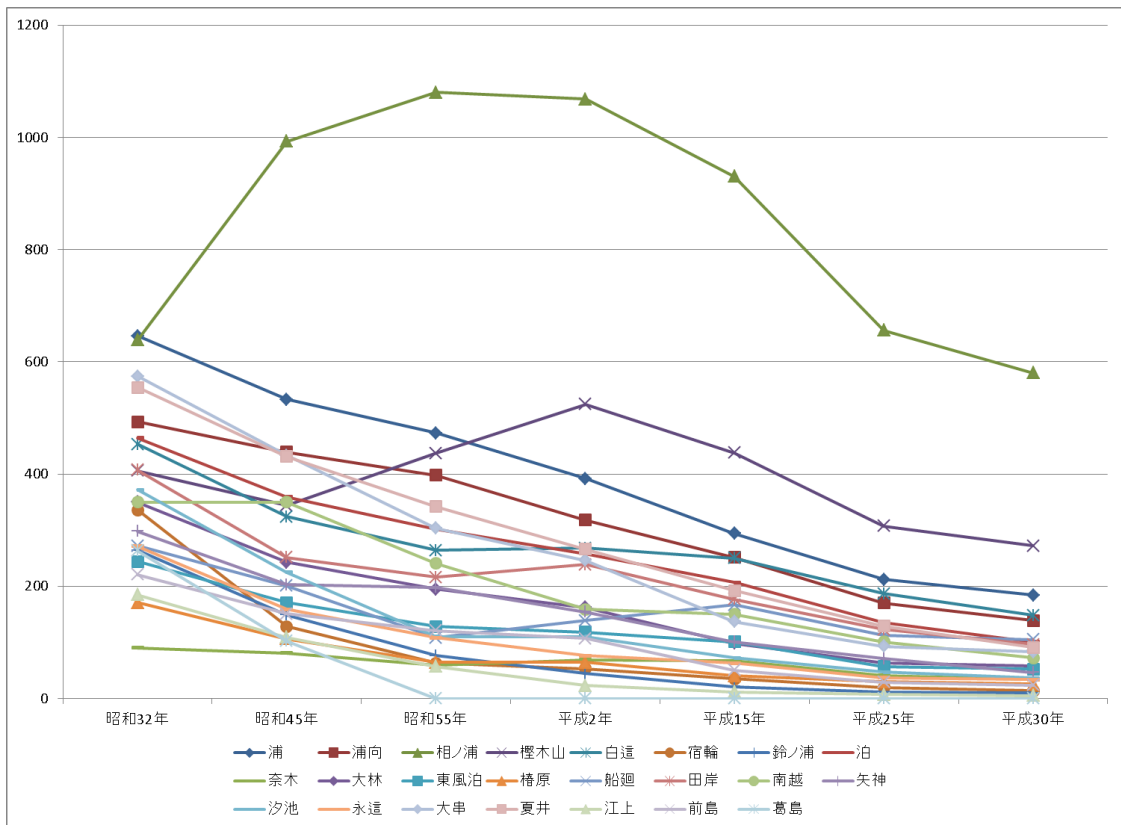


図 1-5 旧奈留町の人口推移

(4) 就業者数と産業構造

本市の就業者数は、人口減少と相まって年々減少している。昭和30年には39,353人だった

のが、平成27年には16,236人となり、約58%の減少率となっている。

産業別就業者数を見ると、平成27年の国勢調査では、第1次産業が15.3%、第2次産業は13.0%、第3次産業が70.2%となっており、昭和30年と比較すると第1次産業が91.1%の減少、第2次産業が31.3%の減少、第3次産業が417%の増加となっている。(図1-6参照)

かつては、農業、水産業を主とした第1次産業が盛んであったが、昭和40年代後半以降、農業就業者数が大幅に減少しており、従来の農業・水産業主導型の産業構造から、第3次産業(卸売、小売業など)主体へと移行している。

年次	第1次産業人口		第2次産業人口		第3次産業人口		分類不能		総数 人	前回比較 人
	人	割合(%)	人	割合(%)	人	割合(%)	人	割合(%)		
昭和30年	28,220	71.7	3,079	7.8	8,053	20.5	1	0.0	39,353	
昭和35年	23,970	65.6	3,509	9.6	9,075	24.8	8	0.0	36,562	▲ 2,791
昭和40年	18,603	59.3	2,895	9.2	9,853	31.4	13	0.0	31,364	▲ 5,198
昭和45年	14,453	51.7	2,702	9.7	10,779	38.6	2	0.0	27,936	▲ 3,428
昭和50年	11,154	45.8	2,520	10.3	10,663	43.8	20	0.1	24,357	▲ 3,579
昭和55年	9,571	38.3	3,438	13.8	11,948	47.9	7	0.0	24,964	607
昭和60年	8,410	35.2	3,274	13.7	12,198	51.0	14	0.1	23,896	▲ 1,068
平成2年	5,901	26.4	4,244	19.0	12,241	54.7	5	0.0	22,391	▲ 1,505
平成7年	4,787	22.0	4,136	19.0	12,826	59.0	2	0.0	21,751	▲ 640
平成12年	3,616	17.8	3,923	19.3	12,785	62.9	5	0.0	20,329	▲ 1,422
平成17年	3,227	17.1	3,030	16.1	12,584	66.7	17	0.1	18,858	▲ 1,471
平成22年	2,791	16.4	2,192	12.9	11,791	69.3	235	1.4	17,009	▲ 3,320
平成27年	2,491	15.3	2,114	13.0	11,391	70.2	240	1.5	16,236	▲ 2,622

各年10月1日現在

国勢調査

図1-6 五島市の産業(大分類)別人口推移

旧奈留町は、明治中頃までは零細的な半農半漁の産業構造であったが、明治後半から島外資本による巻網船団が奈留島近海で操業されるに及び、その影響下のもとに個人経営のイワシ網、キビナゴ地引き網が発生するに至った。個人経営の形態は紆余曲折を経て、地区を単位とする地区共同経営へと発展していった。同時期から農業が衰退しはじめ、こうして奈留島は、農業主体の半農半漁の生業形態から、カツオ漁の餌イワシの供給地である漁業の島として発展していった。(図1-7参照)

産業 年時	農 業	林 業	水 産 業 ・ 漁 業	建 設 業	製 造 業	小 売 業 ・ 卸 売	通 信 業 ・ 運 輸	サ ー ビ ス	電 気 ・ ガ ス ・ 水 道	鉱 業	金 融 ・ 保 険 ・ 不 動 産	公 務	分 類 不 能 の 産 業
	大正5年	戸数 720		5		20	16	4					27
	人数												
昭和25年	戸数 344	2	510	31	220	73	42	113		1	1	23	2
	人数 1,347	4	1,107	46	776	161	74	256		2	10	42	3
昭和35年	戸数 157	2	602	51	427	115	62	111	7	5	8	30	135
	人数 641	3	1,366	92	1,439	245	111	246	8	6	11	43	348
昭和45年	戸数 44	3	835	71	55	152	75	136	9		1	54	
	人数 127	10	1,065	185	159	324	129	294	10	2	4	76	
昭和55年	戸数 10		255	43	18	160	10	50			1		
	人数 14		936	175	66	341	106	308	9		19	78	
平成2年	戸数 4		260	43	23	189	13	75			2		
	人数 5		782	170	51	365	87	351	6		30	82	
平成7年	戸数												
	人数		656	162	51	358	83	406	5		20	78	
平成12年	戸数												
	人数		499	139	49	320	81	379	6	1	15	87	
平成17年	戸数												
	人数	5	355	88	51	251	56	424	4		14	61	
平成22年	戸数												
	人数	8	556	122	66	386	140	740	4		32	98	
平成27年	戸数												
	人数		436	86	58	298	110	680	4		12	124	

図1-7 旧奈留町の産業別就業人口推移

第4節 文化財

五島市管内には、令和2年現在、85件の指定文化財が所在する。指定区分の内訳を見ると、国指定9件、県指定34件、市指定39件、国選択3件となっている。

種別の内訳は、有形文化財16件（建造物7件、美術工芸品9件）、無形民俗文化財11件、記念物55件（史跡23件、名勝1件、天然記念物31件）となっている。

指定文化財に見る特色としては、キリスト教文化を象徴する教会堂が3棟指定されており、福江島、久賀島、奈留島の主要3島にそれぞれ所在している。いずれも明治初期～大正期に建てられた教会堂で、建築当時の姿を良好にとどめている。

また、五島列島が属する気候帯は温暖湿潤気候地域であるが、亜熱帯植物の自生北限地となっており、指定文化財の中にもヘゴ、リュウビンタイなど亜熱帯性植物の自生北限地帯として指定され、保護が図られているのも五島の地理・自然的特色を良く表すものといえよう。

地質・鉱物においても、大陸由来の堆積岩からなる五島層群とその後の火山噴火活動で形成された火山性大地という地質・地形に因んだ天然記念物も所在する。

このうち奈留島には、8件の指定文化財が所在する（種別の内訳は、下記の指定文化財一覧表を参照）。8件のうち6件が天然記念物であり、いずれも、奈留島の特徴的な植生や地質・鉱物が評価されての自然遺産である。

人文関係の史跡などが少ないが、本調査であらためて確認された島内の中世石塔群などは、今後詳しい調査ののちに、その歴史的価値に評価がなされるものと期待される。

【奈留島の代表的な文化財】



江上天主堂（木造教会堂の完成形）



遠見番岳烽火台跡（江戸時代の烽火台・遠見番所跡）



ハマジンチョウ群落（塩湿地性の南方系植物）



宿輪の淡水貝化石含有層（五島列島の成立を示す地層）

指定文化財一覧表

五島市

国 10件 県 35件 市 39件 国選択 3件 計 87件

旧福江市地区

指定区分	名称	種別	指定(認定)年月日	所在地	所有者(管理者)
1 国	銅造如来立像	有形文化財	昭56. 6. 9	吉田町1905番地	明星院
2 国	旧五輪教会堂	有形文化財	平11. 5. 13	蕨町993番地11	五島市
3 国	下崎山町の ヘトマト行事	無形民俗文化財	昭62. 2. 12	下崎山町	下崎山町内会 (ヘトマト保存会)
4 国	石田城五島氏庭園	名勝	平 3. 11. 16	池田町1番7号	五島典昭
5 国	ヘゴ自生北限地帯	天然記念物	大15. 10. 27	増田町二里木場	大櫛伝一外
6 国	男女群島	天然記念物	昭44. 8. 18	浜町1255番地外	国
7 国	五島市久賀島の文化的景観	重要文化的景観	平23. 9. 21	久賀島全域	五島市
1 県	堂崎教会	有形文化財	昭49. 4. 9	奥浦町(堂崎)	長崎カトリック大司教区
2 県	浦頭教会聖教木版画	有形文化財	昭52. 1. 11	平蔵町2716番地	浦頭カトリック教会
3 県	明星院の 木造阿弥陀如来立像	有形文化財	昭52. 7. 29	吉田町1905番地	明星院
4 県	明星院本堂	有形文化財	昭61. 8. 29	吉田町1905番地	明星院
5 県	チャッコ	無形民俗文化財	昭29. 4. 13	上大津町、下大津町	上大津、下大津青年団
6 県	六角井	史跡	昭29. 12. 21	江川町5番地12	五島市
7 県	石田城跡	史跡	昭41. 9. 30	池田町1番1号	五島典昭
8 県	白浜貝塚	史跡	昭56. 3. 27	向町2443番地1	五島市
9 県	五島櫻の浦のアコウ	天然記念物	昭27. 5. 13	平蔵町1570番地	五島市
10 県	鬼岳火山涙産地	天然記念物	昭29. 12. 21	上大津町2539番地	五島市
11 県	黄島溶岩トンネル	天然記念物	昭39. 10. 16	黄島町1209番地	黄島町内会
12 県	福江の大ツバキ	天然記念物	昭42. 2. 20	野々切町(大窄)1729	五島市
13 県	福江椎木山の漣痕	天然記念物	昭42. 9. 8	平蔵町(椎木山)1297	白浜弥吉外
14 県	久賀島のツバキ原始林	天然記念物	昭47. 5. 26	田ノ浦町(長浜)	五島市
1 市	天満神社宝物	有形文化財	昭43. 4. 1	下大津町716番地1	天満神社
2 市	武家屋敷公園邸	有形文化財	平 4. 6. 24	武家屋敷2丁目2番7号	松園新子
3 市	五社神社の管崎鳥居	有形文化財	平11. 1. 21	上大津町五社神社	五社神社
4 市	白浜徴氏筆犬の絵	有形文化財	平11. 1. 21	五島観光歴史資料館	福江小学校
5 市	佐藤一斎の手紙	有形文化財	平11. 1. 21	五島観光歴史資料館	五島市教育委員会
6 市	坂部貞兵衛の手紙	有形文化財	平16. 2. 20	五島観光歴史資料館	五島市教育委員会
7 市	戸岐神社例祭	無形民俗文化財	昭63. 7. 21	戸岐町	戸岐町内会
8 市	吉田の綱引	無形民俗文化財	昭63. 7. 21	吉田町	吉田町内会
9 市	椀島神社例祭	無形民俗文化財	昭63. 7. 21	本窯町	本窯郷
10 市	明人堂	史跡	昭43. 4. 1	福江町1032番地2	五島市
11 市	五島家墓地	史跡	昭58. 10. 1	三尾野町1307番地 木場町216番地	五島典昭
12 市	嘯月園	史跡	昭58. 10. 1	吉久木町660番地1	五島典昭
13 市	常灯鼻	史跡	昭58. 10. 1	福江町大波止	五島市
14 市	福江武家屋敷跡	史跡	平 4. 6. 24	武家屋敷2丁目1番20号	五島市
15 市	育英館記碑	史跡	平11. 1. 21	福江小学校玄関前	福江小学校
16 市	坂部貞兵衛の墓	史跡	平11. 1. 21	福江町宗念寺墓地	貞方典
17 市	クワズイモ	天然記念物	昭43. 4. 1	下大津町630番地(八幡神社)	八幡神社
18 市	タヌキアヤメ	天然記念物	昭43. 4. 1	高田町翁頭池一帯	五島市
1 国選択	五島神楽	無形民俗文化財	平14. 2. 12	八幡、住吉、五社、天満神社	福江五島神楽 保存協会

旧富江町地区

指定区分	名 称	種 別	指定(認定)年月日	所 在 地	所有者(管理者)
1 県	富江町・山崎の石塁	史 跡	昭45. 1. 16	富江町岳	山 本 義 夫
2 県	富江溶岩トンネル「井坑」	天 然 記 念 物	昭32. 3. 8	富江町岳	五 島 市
1 市	富江五島家古文書	有 形 文 化 財	平22. 3. 26	富江町	五 島 市
2 市	狩立オネオンデ踊	無 形 民 俗 文 化 財	昭50. 8. 18	富江町狩立	狩立オネオンデ保存会
3 市	山下オネオンデ踊	無 形 民 俗 文 化 財	昭50. 8. 18	富江町山下	山下オネオンデ保存会
4 市	小島コバコ(ナギナタ)踊	無 形 民 俗 文 化 財	昭50. 8. 18	富江町富江	小島コバコ踊保存会
5 市	富江藩主の墓	史 跡	昭50. 8. 18	松尾郷(瑞雲寺)	五 島 カ ズ 工
6 市	宮下貝塚	史 跡	平 2. 10. 29	富江町富江	個 人
7 市	黒瀬鯨鯢の碑	史 跡	平 2. 10. 29	富江町黒瀬	五 島 市
8 市	富江小学校アコウの木	天 然 記 念 物	平 2. 10. 29	富江町富江(富江小学校)	五 島 市
1 国選択	五 島 神 楽	無 形 民 俗 文 化 財	平14. 2. 12	富江神社、七岳神社	富江神楽保存会

旧玉之浦町地区

指定区分	名 称	種 別	指定(認定)年月日	所 在 地	所有者(管理者)
1 国	ヘゴ自生北限地帯	天 然 記 念 物	大15. 10. 27	玉之浦町荒川字矢ノ口	五 島 市
1 県	大宝寺の梵鐘(一口)	有 形 文 化 財	昭39. 3. 16	玉之浦町大宝631(大宝寺)	大 宝 寺
2 県	下五島大宝の砂打ち	無 形 民 俗 文 化 財	昭57. 1. 25	玉之浦町大宝	大 宝 郷 会
3 県	五島玉之浦のアコウ	天 然 記 念 物	昭27. 5. 13	玉之浦町玉之浦	五 島 市
4 県	丹奈のヘゴ、リュウビンタイ混交群落	天 然 記 念 物	昭29. 4. 13	玉之浦町丹奈	五 島 市
5 県	荒川のハマジンチョウ	天 然 記 念 物	昭29. 12. 21	玉之浦町荒川字矢ノ口	五 島 市
6 県	七岳のリュウビンタイ群落	天 然 記 念 物	昭29. 12. 21	玉之浦町荒川字七岳	五 島 市
7 県	頓泊のカラタチ群落	天 然 記 念 物	昭29. 12. 21	玉之浦町丹奈字頓泊	五 島 市
8 県	島山島のヘゴ自生地	天 然 記 念 物	昭45. 1. 16	玉之浦町玉之浦浅切	玉 之 浦 郷
9 県	白鳥神社社叢	天 然 記 念 物	昭52. 1. 11	玉之浦町玉之浦1630(白鳥神社)	白 鳥 神 社
1 市	大宝寺奥の院五重の層塔	有 形 文 化 財	平22. 3. 26	玉之浦町大宝631(大宝寺)	大 宝 寺
2 市	大瀬崎粗粒玄武岩の平行岩脈群	天 然 記 念 物	平 2. 2. 19	玉之浦町玉之浦	五 島 市
1 国選択	五 島 神 楽	無 形 民 俗 文 化 財	平14. 2. 12	白鳥神社	玉之浦神楽保存会
2 国選択	下五島大宝の砂打ち	無 形 民 俗 文 化 財	昭54. 12. 7	玉之浦町大宝	大 宝 郷 会

旧三井楽町地区

指定区分	名 称	種 別	指定(認定)年月日	所 在 地	所有者(管理者)
1 国	三井楽(みみらくのしま)	名 勝	平26. 10. 6	三井楽町(海浜、海域)	五 島 市
1 県	オームンデー	無 形 民 俗 文 化 財	昭35. 3. 22	三井楽町嵯峨島	オームンデー保存会
2 県	貝津の獅子こま舞	無 形 民 俗 文 化 財	昭47. 8. 15	三井楽町貝津	貝津獅子こま舞保存会
3 県	漣 痕	天 然 記 念 物	昭34. 1. 9	三井楽町浜の畔字横浜	五 島 市
4 県	嵯峨島火山海食崖	天 然 記 念 物	昭34. 5. 19	三井楽町嵯峨島	五 島 市
1 市	嶽家牢屋敷跡	史 跡	昭50. 2. 26	三井楽町岳	五 島 市
2 市	カグラサン	史 跡	平22. 3. 26	三井楽町柏	五 島 市
1 国選択	オームンデー	無 形 民 俗 文 化 財	昭46. 11. 11	三井楽町嵯峨島	オームンデー保存会

旧岐宿町地区

指定区分	名 称	種 別	指定(認定)年月日	所 在 地	所有者(管理者)
1 県	寄神貝塚	史 跡	昭37. 11. 8	岐宿町岐宿寄神ほか	五 島 市
2 県	岐宿町タヌキアヤマ群落	天 然 記 念 物	昭27. 5. 13	岐宿町松山桑木場465	桑 木 場 部 落
3 県	巖立神社社叢	天 然 記 念 物	昭45. 6. 9	岐宿町岐宿字スコモ(巖立神社)	五 島 市
4 県	五島八朔鼻の海岸植物	天 然 記 念 物	平25. 10. 4	五島市岐宿町岐宿字榎津	五 島 市
1 市	宇久五島家八代覚公墓	史 跡	昭55. 4. 5	岐宿町岐宿(金福寺)	五 島 典 昭
2 市	城嶽山城址	史 跡	昭55. 4. 5	岐宿町岐宿(城嶽)	五 島 市
3 市	ともづな石	史 跡	昭55. 4. 5	岐宿町川原(白石)	白 石 町 内 会
4 市	楠原牢屋跡	史 跡	昭55. 4. 5	岐宿町楠原(東楠原)	五 島 市
5 市	本宮寺六地藏	史 跡	昭55. 4. 5	岐宿町岐宿(宮町)	五 島 市
1 国選択	五 島 神 楽	無 形 民 俗 文 化 財	平14. 2. 12	巖立神社	岐宿神楽保存会

旧奈留町地区

指定区分	名 称	種 別	指定(認定)年月日	所 在 地	所有者(管理者)
1 国	江 上 天 主 堂	有 形 文 化 財	平20. 6. 9	奈留町大串1131	長崎カトリック大司教区
2 国	奈留島権現山樹叢	天 然 記 念 物	昭33. 3. 11	奈留町浦1897,1899、泊字松ヶ崎	五 島 市
1 県	船 廻 神 社 社 叢	天 然 記 念 物	昭31. 4. 6	奈留町船廻939,940	五 島 市
2 県	奈留島皺の浦の ハマジンチョウ群落	天 然 記 念 物	平元. 9. 29	奈留町大串字池塚503-1	五 島 市
1 市	遠見番山烽火台跡	史 跡	平 3. 6. 19	奈留町船廻801	五 島 市
2 市	水 晶 岳 の 双 晶	天 然 記 念 物	平 3. 6. 19	奈留町泊1023,1024,1042	五 島 市
3 市	池 塚 の ビ ー チ ロ ッ ク	天 然 記 念 物	平 3. 6. 19	奈留町大串字池塚503-1	五 島 市
4 市	宿輪の淡水貝化石含有層	天 然 記 念 物	平 7. 4. 12	奈留町浦1134-1,3	五 島 市